

エンカウンター (ENCOUNTER)

第 196号

平成30年8月20日

編集・発行人 〒224-0015 横浜市都筑区牛久保西 2-14-28 山口周三

電話 080-1232-0905

<http://encounter.agape.gr.jp/>

カウマン夫人著『日の出に向かって』より (8)

8月2日

彼女は答えた、「無事です」。(列王記下 4・26)

南北戦争のあの暗い時期、黒人たちが落胆し、将来のことを恐れていた時、ひとりの黒人がグラント将軍の所に行って言いました。

「やあ、今日は、グラント将軍」。彼は手を差し伸べ、将軍は快く握手をしました。「将軍、状況はどんなものですか」。将軍の答えはこうでした。「すべて良好だよ」。

彼らを安心させる言葉は短い間に軍全体に広まり、人々の意気消沈した心を希望と喜びに変えました。もし意気消沈したクリスチャンがその司令官のもとへ行くなら、彼は「何もかもうまくいっている」という言葉によって、安らぎを与えられるでしょう。

8月3日

彼らはバカの谷を通っても、そこを泉のある所とします。また前の雨は池をもってそこをおおいます。(詩篇 84・6)

あなたはバカの谷を通ったことがあるでしょうか。この言葉の正しい訳は「悲しみの谷」です。あなたはそれがどこにあるか間違いなく知っていることでしょう。一度も悲しみを知らない人間などいないのですから。……

信じ、実践するクリスチャンとして、あなたはあなたの持っているその谷を、まさに泉に変えることができ、それを力と変えることができます。ひとりの老婦人が老いに伴う特別な悲しい経験のことを語りましたが、その経験は、彼女をして毎日 15 分間の神との交わりの時間へと導いたのでした。…そして彼女は神の知恵の光の中で、その一日をどう乗り越えていけるかを見ることができたのです。あなたの悩みは…あなた自身のデリケートな性質かも知れません。大変な痛みのリウマチかも知れません。…それが何であっても、その不毛に見えるところに隠れた泉があるのです。…

神は泉がない道など持っておられない。たとい神の道が荒涼とした荒野を横切っていたとしても、砂漠の地に泉が吹き出るので。荒野は喜びの声を上げ、バラが生い茂ったようになる。

8月4日

主なる汝の神の導き給えるすべての道を汝おぼゆべし。
(申命記8・2)(文語訳)

今日私は細いアカシヤの木を見た。時は5月

木は霧の白さで全体が光っていた……

アカシヤは10月を気に留めず

ただ、春のために装い

そして、私に微笑みかける…

ああ、人生の秋が私にやって来る時も

心は人生の春を呼びもどすように

花咲き白く装わせてください

数々の人生の戦いに勝利した事を思い出し、争いを忘れなさい

古い敵を忘れ、愛した人を思い起こして喜びなさい。——そして

歌いなさい

マーガレット・K・スパイデル

すばらしい老齢ほど、麗しいものがあるでしょうか。もし眼が天的光で輝き、見る人に喜びを与え、声の調子から信仰をよく感じさせることができたとしたら、髪が白くなり、顔に輝きが失せても、そんな事は何だというのでしょうか。

8月7日

彼は高齢に達し、年も富も誉も満ち足りて死んだ。

(歴代誌上 29・28)

まだ日の高いうちに、あなたの杖を取り戻して真理のための新しい
戦いを始めよ

年齢なんてなんだ。青年が咲き誇っていても

老いたる者よ、あなたの方が経験があるではないか…

62歳の時人生は始まった

72歳でもう一度始まる

あなたが太陽に一番近づいた時

すみやかに飛べ

84歳でより輝くであろう

95歳になったとしても

なお、神に仕え、働き、労苦しつづけよ

私は死の時にも完全に用いられていたいものです。なぜなら、生きる限り熱心に働きたいからです。人生は私にとって単にろうそくなどではありません。それはたった一瞬のためだけに、常に持っているトーチランプのようなものです。私はそれを未来の世代に手渡す前に、できる限り明るく燃えたいと思っています。

8月9日

私の一生はあなたの前では無に等しいのです。(詩篇 39・5)

「年を取ることは悲しいことではない」と言うことは難しく、そう言える人は、ほとんどいないでしょう。もし、あなたが過ぎ去った年月を取り戻そうと努め、髪が白くならないように、また目がかすみ、額にしわが寄らないようにしたいと思っているなら、確かに年を取ることは悲しいことです。

しかし、この世で最も美しいものの一つは、経験を積んで、より寛容に、よりやさしくなった老人です。人間をその弱さにもかかわらず愛することができ、青年たちをその若さのゆえに軽んじない老人です。そのような人は、古いストラディバリウスのバイオリンにたとえることができます。年を経るにつれてその音色は洗練され、その価値は百倍にもなります。そして、まるで魂を宿しているかのようになるのです。

チャールズ・ワグナー

神よ、私に憐れみと思慮を与え　　私に勇気を与えてください

神よ、私に平安と確信とを与え

そしてどうか、私の目に輝きを与えてください。

神よ、この世にほほえみをたたえた人がおりますことを感謝いたします

8月11日

こういうわけで、私たちは、このような多くの証人に雲のように
囲まれているのであるから、いっさいの重荷と、からみつく罪と
をかなぐり捨てて、私たちの参加すべき競走を、耐え忍んで走り
ぬこうではないか。信仰の導き手であり、またその完成者である
イエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか。(ヘブル12・1-2)

旅をしている時、その行程の最後の一マイルが、旅の中で最も苦
しい時だと思えます。…

私たちが天国の家路に向かって疲れた足で進むとき、私たちはな
お静かに歌うことができます。

天国！ それはこの人生の旅路の歌の最後に出てくる言葉です。
そこは、恐ろしい、人々を驚かすような美とは違った美しさに出会
う場所なのです。そこは見なれた光景が栄化されて美しく、少し前
に私たちのもとから去って行ったなつかしい人たちの、笑顔が待っ
ている場所なのです。そこは、人生の旅路で約束されたことが成就
する場所であり、その旅行中の苦しみに対して、正当な報いが与え
られる場所なのです。

天国！ それは、旅路の終点であり、歌の最後の言葉です。そし
てそれは、全く逆のことなのですが、まさにそれは、明らかに新し
い歌の始まりであり、永遠への道程の第1歩なのです。

マーガレット・エリザベス・サングスター

8月12日

主よ、朝ごとにあなたはわたしの声を聞かれます。わたしは朝ごとにあなたのために、いけにえを備えて待ち望みます。(詩篇5・3)

一日の思い煩いが生じるより前

心の広い扉が開かれて、この世の事柄がはいってくる前

ああ、朝の静けさの中で主イエスとだけ、

天的な甘美な交わりの中で、あなたの幸いな日を始めさせて頂きなさい

安息をもたらす祝福に満たされた静けさの中で

あなたの魂をして、露がバラを生き生きとさせるように

思う存分に憩わしめ、柔らかなものにして頂きなさい

一日が終わる時、神が語られることを聞こうとして、ずっと主の前に静かに座るのが、敬虔な神の僕の習慣でした。「神よ、語り給え。あなたの僕は聞きますから」。

神の語りかけを聞くために、毎日心の中で静思の時を持つ人は幸いである。

8月24日

キリストは死を滅ぼし、福音によっていのちと不死とを明らかに示されたのである。(テモテⅡ1・10)

あなたはまた若くなりたいか

私はそうは思わない

思い出して一粒涙をこぼし 私は前に急ぐ

人生の暗い洪水を渡り切って

岸に休んでおりながら

天の家がすぐ近くにあるのに

もう一度飛び込ませようと言うのか

もし出来たら 来た道を引き返したいか

嵐の荒野をさまよって

力弱り、迷いたいのか

暗い夜の夜回りたちは去って行って

朝が赤く光を放つ

私たちの周りに希望の笑みが注がれて

天に向かうのだ

神は永遠に始め続けられる。古い夜から新しい朝を生み出し、ゆううつな終りから美しいはじめに導かれる

8月26日

あなたが生きながらえる日の間、あなたに当ることのできる者は、ひとりもないであろう。わたしは、モーセと共にいたように、あなたと共にいるであろう。私はあなたを見放すことも、見捨てることもしない。(ヨシュア1・5)

私たちは、理解に苦しむ道に導かれるかもしれません。しかし、いつも私たちの主が伴ない、助けてくださり、そして必要を備えてくださいます。金銭をやたらと求める必要はありません。なぜなら、私たちには主が共にいて下さり、主は金よりも秀れており、主の恵みは富よりも優っているからです。

私たちは、アルプスの登山家のようにしなければなりません。私たちは頂上を目指して登る者として、案内者の強い支援を受けなければなりません。手近なところを見ましょう。絶壁から下を見るならば、めまいがするでしょう。あまりにも遠い前方を見るならば、私たちは落胆するでしょう。むしろ、私たちの弱い手をキリストの力強い愛の御手に置き、そして「恐れるな、ただ信頼せよ」と、言われる主の励ましの御言葉に、たえず耳を傾けましょう。

テオドレ・L・フィラー

未来を覆っている小さなカーテンの引き方を学べ。

8月28日

私は暁をよびさます。(詩篇 57・8)(スミス訳)

私はひとりだ。朝が明け、ここではすべてが静寂である。神が近くにおられるから、私は目を上げ、私の手を前へ伸ばす。無上の幸福、きよらかな静穏の中へ。声も耳ざわりな音も、それを破ることはない。私は満たされる。朝が明ける時、私はキリストと共に満ち足りる。

ケイト・ブローニング・ファンツ

一日が始まる前に神と共にいることは、言葉で言い表すことができないほど、なんと素晴らしいことでしょうか。あなたを取り巻く世界が目覚め、動き出す前に、その日のために早く備えなさい。夜明けの前のひと時が刷新の時です。そして夜明けの静けさが祝福として一日中残るでしょう。静けさの中で、あなたの心を開きなさい。そして、神にあなたの魂を支配して頂きなさい。森で飾らずに、ひとりで咲く野バラの芳しい香りのように、あなたの静思の時を持ちなさい。

あなたはできるだけのことをせよ。その他のことは神がして下さる。

8月30日

しかし、イエスは祈りのためにいつものように荒野に退いた。

(ルカ 5・16)(バークレイ訳)

山、砂漠、そして地上で最も寂しい二つの場所は、私たちの主が絶えず出入りされた場所でした。…

荒野は、またいつも神が、神の民をよく訓練される場でもありました。いったいどれくらいの神の御言葉のページが、荒野のこれらの記録に用いられているでしょう。

モーセは荒野で40年間過ごしました。エリヤ、バプテスマのヨハネ、パウロ、ピリポらすべては、荒野でしか学ぶことのできない教訓を学ぶために荒野に導かれました。イスラエルの歴史は、荒野の記録で満ちています。これらすべてが、私たちの公の生涯は、荒野の記録で満たされるべきであると教えています。それなしでは、私たちの人生も軽薄なものになってしまいます。そのような訓練を多く受けていないすべての品性は、真実さに欠けています。

神は私たちのすべてにも、孤独を備えて下さっています。それはちょうど、神の民が孤独の中を通されたのと同じ理由で、すなわち神を知るため、私たち自身を知るため、そして私たちが神に仕えるようになるためなのです。フレッドリック・ウィットフィールド